

第25回 音楽と朗読の夕べ

七夕の夜、図書館で音楽と朗読を楽しみませんか♪

【と き】平成30年7月7日(土)

午後7時から午後8時30分(開場は午後6時30分)

【と ころ】図書館本館 2階

【内 容】人形劇「タンタンのハンカチ」(夢クラブ)

ペープサート「おたまじゃくしの101ちゃん」(かさぐるま)

奥村百合名 ピアノ演奏

「きらきら星変奏曲」モーツァルト/作曲

「星のどうぶつたち」田中カレン/作曲 他

【チケット】200円(飲物とお菓子付)

6月9日(土)より本館、南部、中部にて販売開始。

主催：碧南市民図書館・碧南の図書館友の会

休館日

6月の休館日

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

7月の休館日

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

■ は本館の休館日です

※7月の月末休館日はありません。

6月のギャラリー

『花の会 作品展』

期 間：6月1日(金)～28日(木)

提 供：スケッチ花の会

※ギャラリーの展示は17時までです

編集後記

大学時代、『夜は短し歩けよ乙女』(森見登美彦/著 角川書店 BF モ)をいたく気に入ったゼミの友人に京都へ連行されました。物語に登場する場所を巡り、どこかで「電気ブラン」なるお酒が飲めないか夜の京をさまよった思い出があります。文章のみで想像を膨らませるのももちろん良いのですが、みなさんも実際に物語の舞台へ足を運んでみてはいかがでしょうか、きっと楽しいですよ。(か)

けやきどおり通信 (No.297)

編集・発行 碧南市民図書館

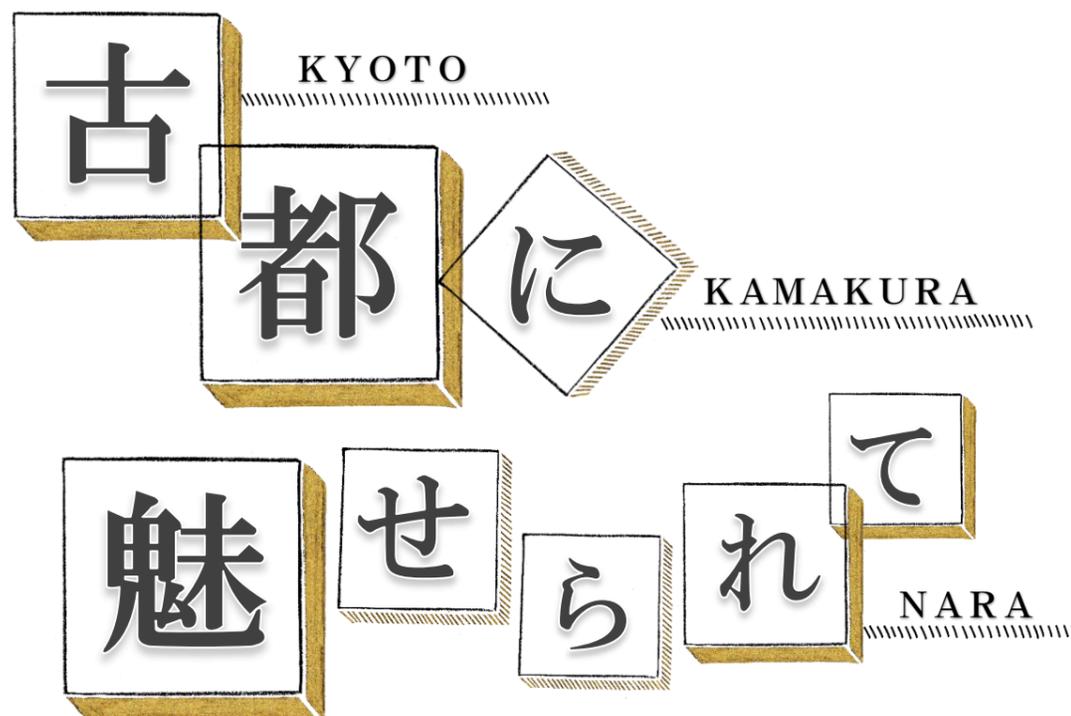
〒447-0057
碧南市鶴見町1-70-1
Tel: (0566) 41-0894



けやきどおり通信



2018年6月 ~No. 297~



6月といえば雨の季節ですね。

湿気が肌にまとわりついてじめじめとした気持ちになる季節ともいえますが、庭の紫陽花を見ると、少しだけ心が軽くなるような気がします。

紫陽花の名所といえば、思い浮かぶのは、京都の三室戸寺、奈良の矢田寺、鎌倉の明月院などでしょうか。いわゆる、これら「古都」と呼ばれる場所が、梅雨の鬱陶しさや夏の暑さをも情緒あるものに変えてしまうのは、先人たちの知恵と工夫が詰まった場所であり、それを守ってきた人々の思いが長い年月をかけて熟成された場所だからなのかもしれません。というわけで、今月の特集は、今も多くの人々を惹きつけてやまない古都の魅力にせまります。古都を舞台にした小説から、歴史、美術、文化などに関する資料をご紹介します。

「まひるの月を追いかけて」
恩田 陸/著 文芸春秋 (Fオ)

ライターをしていた兄が奈良を取材中に失踪した。兄の恋人に誘われ奈良へと旅立った妹の静は、兄の後を追って橿原神宮、明日香、山辺の道を歩く。のどかな自然風景の中に母のようなぬくもりを感じる一方で、町に点在する古墳や古寺に死者の気配を感じながら、ほとんど交流のなかった兄や自分自身の過去と向き合うことに。いくつもの嘘と疑惑に包まれたこの奇妙な旅の結末は？

「奈良の古杜寺」
淡交社編集部/編 淡交社 (185十)

奈良の有名な社寺から、隠れた名刹まで全47件を地域別に紹介。宗派や御本尊(祭神)などがひと目でわかり、社寺の歴史や拝観のポイントなどもまとめられている。各地域を巡るモデルコースも紹介されているので、奈良へ旅立つ前に目を通しておきたい一冊。

COMMENT ↑

『まひるの月を追いかけて』に登場する社寺や仏像をビジュアルで確認できます。2冊一緒に読むことでさらにイメージが膨らむかもしれません。物語の鍵ともいえる橋寺も掲載されています。

「東慶寺花だより」井上 ひさし/著 文芸春秋 (Fイ)

妻の側から離婚ができなかった時代、夫との縁を切りたいと強く願う女たちが駆け込んだのが鎌倉の東慶寺だった。妻が寺の境内に入るか、身に着けている物を投げ込めば駆け込みが成立。その後、妻と夫は寺内の御用宿に分宿し、役人から聞き取りをされることになる。その御用宿に居候していた医者見習い兼作家の信次郎は、離縁を望む妻たちが抱える様々な事情と心の内を知ることに。夫婦の絆を考えさせられる連作短編集。

「与楽の飯」澤田 瞳子/著 光文社 (Fサ)

時は奈良時代。国家鎮護の大事業・東大寺造営と大仏建立のため、近江から徴発された青年・真楯は、最も仕事の厳しい造仏所に配属されてしまった。重労働が続く日々の中で、彼の身体と心を支えたのは炊屋(食堂)の炊男・宮麻呂が作る絶品料理だった。仏などいないと思っていた彼が仲間と共に働く中で見つけた「仏」とは……。



「手のひらの京」

綿矢 いさ/著 新潮社 (Fフ)

おっとりした性格ながらも結婚・出産に焦りを感じている長女。恋愛に積極的で負けん気の強い次女。生まれ育った京都が好きなのにいつかは旅立ちたいと考えている大学院生の三女。それぞれの現状に悩みながらも互いを思いあい、まっすぐに人生を歩もうとする三姉妹の姿を、京都の美しい四季とともに描く。現代版「細雪」ともいえる作品。

「ふたつめの庭」

大崎 梢/著 新潮社 (Fオ)

湘南モノレールの西鎌倉駅近くの「かえで保育園」に勤める小川美南には、気がかりな保護者がいる。離婚をきっかけにシングルファーザーになった志賀隆平だ。大企業に勤める彼は、息子のために定時退社しやすい部署へ異動し、子育てに悩みながらも奮闘していた。保育園で起こる予測不能な出来事や行事を通して、二人の関係にも変化があらわれる。

「宵山万華鏡」森見 登美彦/著 集英社 (Fモ)

大切な人を失いたくなければ「手を離しては駄目だよ」——。祇園祭の前夜祭・宵山。駒形提灯の幻想的な灯りが街を照らすとき、現実と妖しの世界が入り混じる。宵山の雑踏で互いの手を離してしまった幼い姉妹、友人を騙そうと盛大な偽祇園祭を企む怪しげな骨董屋とそれに巻き込まれた大学生、娘が行方不明になった宵山の日を何回も繰り返している男など、様々な事情と思惑を抱えた人々が摩訶不思議な宵山の世界に迷い込む。

「祇園祭の愉しみ」芳賀 直子/著 PHP 研究所 (386ギ)

日本三大祭りにも数えられ、京都の夏の代名詞ともいえる祇園祭を10年以上見続けている著者が、宵山や山鉾巡行の見所はもちろん、祇園祭の中でもあまり知られていない神事や祭の間に楽しみたい料理やスイーツなどを紹介。

COMMENT ↑

『宵山万華鏡』にも登場する螻蛄山はじめ、さまざまな山鉾の解説と写真が掲載されているので2冊一緒に借りてみてはいかがでしょうか。ちなみに、物語に登場する「粽」が食べ物ではないことをこの本で知りました。

「古都の写し方入門」原田 寛/著 日本カメラ社 (743コ)

奈良であれば謎多き歴史ロマンとのどかな自然風景、京都であれば寺院から町屋にまで見られる洗練された人工美、鎌倉であれば狭い谷に建つ寺社と開放感のある海辺など、各地域の特色を生かした写し方と撮影技術を紹介。



「古墳空中探訪 奈良編」梅原 章一/著 今尾 文昭/解説 新泉社 (210.3コ)

纏向・柳本・大和古墳群はじめ、奈良盆地にある主要古墳の空撮写真を収録。地上ではつかみにくい古墳の全体像や地形、集落遺跡との関係性なども見えてくる。

「京都読書空間」

光村推古書院 (024キ)

歴史ある古本屋さんに私設図書館、おしゃれな空間でコーヒーとともに読書を楽しめるブックカフェなど、一度は行ってみたい京都の読書空間が満載。

「京都ごはん日記」いしい しんじ/著

河出書房新社 (915キ)

玉子かけごはん、お好み焼き、鯖寿司、焼き鳥、ハンバーグにビール。京都に暮らす作家・いしいしんじが綴った垂涎のごはん日記。巻末には「美味しい店紹介」もあり。

「鎌倉の歴史 谷戸めぐりのススメ」
高橋 慎一郎/編 高志書院 (213カ)

「京都まち遺産探偵」
円満字 洋介/著 淡交社 (521キ)

「京の暖簾と看板」
渡部 巖/写真 竹本 大亀/文
光村推古書院 (674キ)

「奈良大和の祭り」
野本 暉房/写真・文 東方出版
(386十)

